

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

| | |
|--------------------------|---|
| 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要） | 1 |
| 1. 畜産学部、畜産学研究科 | 3 |
| 2. 原虫病研究センター | 5 |

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

| 学部・研究科等 | 研究活動の状況 | | 研究成果の状況 | |
|-------------|---------|-------------|---------|-------------|
| 畜産学部、畜産学研究科 | 【2】 | 相応の質にある | 【2】 | 相応の質にある |
| 原虫病研究センター | 【4】 | 特筆すべき高い質にある | 【4】 | 特筆すべき高い質にある |

1. 畜産学部、畜産学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 4)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 国際共同研究推進施設「グローバルアグロメディシン研究センター」を中心に、学术交流協定校のコーネル大学（米国）及びウィスコンシン大学（米国）との教育研究交流を推進し、同センターの教員体制の充実を図り、平成 31 年度までに延べ 58 名の研究者を招へいし、2 大学との共同研究を 23 件実施し、33 本の論文を公表した。

〔特色ある点〕

- 国際協力機構（JICA）との連携協力協定に基づき、平成 28～31 年度に 18 件の研修員受入事業を実施し、延べ 165 名の教員が参画し、農林水産分野、獣医農畜産分野にかかる開発途上国の研修員を受け入れた。また、他機関が実施する 68 件の研修員受入事業にも平成 28～31 年度に 194 名の教員を派遣した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、3 件、1 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

〔優れた点〕

- 帯広畜産大学全体の研究については、Elsevier 社 SciVal/Scopus（令和 2 年 7 月 9 日現在）が提供するベンチマーキング（平成 28 年～令和元年の 4 年間で、ASJC（All Science Journal Classification）に基づく分類のうち、Veterinary（獣医学）分野における論文数、被引用数がともに国内第 4 位となっており、量・質ともに優れた研究成果を生み出している。

2. 原虫病研究センター

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 6)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 7)

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 特筆すべき高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

国際連携協力部門に国際獣疫分野を設置するとともに、国際基準を満たす施設・設備の新規整備などにより、取得している ISO17025 基準の専門検査室体制を維持・強化している。また、寄生虫学に関する国際シンポジウム、研究集会、地域における国際協力機構関連事業に関するワークショップ等、第3期中期目標期間の4年間で70件開催し、1,799名の参加者を集めている。さらに、原虫病研究センターの活動については、体験講座等を通じて一般コミュニティにも広く情報を発信している。

〔優れた点〕

- 平成28年度のISO17025認定取得に伴い、平成29年度に国際連携協力部門にISO及びOIE担当者を集結した「国際獣疫分野」を設置した。また、国際基準を満たす施設・設備の新規整備などによりISO17025基準の専門検査室体制を強化するとともに、認定を更新することで国際基準の研究体制の維持に努めている。

〔特色ある点〕

- 寄生虫学に関する国際シンポジウムやワークショップ、原虫病研究センター出身の研究者を集めた研究集会、地域における国際協力機構関連事業に関するワークショップなどの様々な取組を、平成28年度から平成31年度までの4年間で70件実施し、1,799名の参加者を集めた。
- 原虫病研究センターの取組を広く一般に情報発信するため、講演会や市民講座、畜大ふれあいフェスティバルにおける体験講座などを、平成28年度から平成31年度までの4年間で17件実施し、2,590名の参加者を集めた。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 特筆すべき高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、2件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、特筆すべき高い質にあると判断した。

「マラリアボックスを活用した創薬のためのオープンソースの形成」は、世界中の約200の研究グループが、*in vitro*でマラリア原虫の増殖を阻害できる400の代表的な化合物に関するデータセットであるマラリアボックスを用いて、真菌、細菌、原虫、寄生虫、がん細胞等の病原体に対する活性反応について横断的に調査したものである。医学分野、感染症分野、寄生虫学分野等を中心に現在まで108回引用され、ダウンロード・閲覧数も2万回を超えている。

〔優れた点〕

- 原虫病研究センター全体の研究についても、Elsevier社SciVal/Scopus（令和2年7月9日現在）が提供するベンチマーキング（平成28年～平成31年の4年間で、ASJC（All Science Journal Classification）に基づく分類のうち、Parasitology（寄生虫学）分野における論文数、被引用数、Top10%論文数で国内第1位となっており、量・質ともに優れた研究成果を生み出している。